

【花き】の【高温】対策について

<7月>

宮崎県総合農業試験場専門技術センター

【花き共通】

(1) 予想される被害状況

高温・乾燥による葉焼け、チップバーン（葉先枯れ）。生育不良。
開花の早進化または遅延。

(2) 事前対策

施設内の気温上昇を抑えるため、できるだけ開放し換気を良くするとともに、ハウス外を寒冷紗等の遮光資材で覆う。

また、用水を確保し、生育に応じたかん水を実施する。用水の確保が難しい場合は、通路に敷きわら等でマルチを行い、土壤水分の蒸発をできるだけ抑える。

(3) 事後対策

しおれ等の障害が続く場合は、シリンジ（葉水）を行うとともに回復程度を観察しながらかん水量を増やし、継続的にかん水を行う。

また、チップバーン等の障害が出た場合は、障害部位に灰色かび病等の病害の発生がでるおそれがあるので、殺菌剤を散布する。

【キク】

(1) 予想される被害状況

開花前進化または開花遅延。
ブラインド、奇形花の発生等による品質低下。

(2) 事前対策

気温が高い時間帯は、寒冷紗等の遮光資材を被覆し、頭上散水や循環扇等を利用し、乾燥防止とハウス内気温の低下を図る。

ハウスサイド、谷、妻面の開口部をできるだけ大きくとり、換気の向上を図る。

(3) 事後対策

花き共通に準ずる。

【シキミ】

(1) 予想される被害状況

乾燥による枯死、高温による焼け。

(2) 事前対策

- ① 用水が確保できる場合は、かん水を行い、土壌の乾燥を防ぐ。
- ② 1年生幼木については、乾燥による枯死や生育不良が懸念されるので、かん水とあわせ、根元に敷きわらを行い土壌の乾燥を避ける。

(3) 事後対策

高温によるしおれ等が見られた場合は、株元直下にかん水を行う。
乾燥状態が続くとハダニ等の発生が多くなるので、早期防除を実施する。
その他は花き共通に準ずる。